

歴史的建造物の鑑定が場處に依て一定しないのは人の知る通りであるが、  
兎に角ヂェララバード谿谷に關する調査が更に其の歩を進め、埋藏する遺物  
に依てナガラハールの位置が確定するまでは、此の都會を發見する見込の最  
も多い場處を決定するやうに努めなくてはならぬ。是れが爲には三つの主要  
な參考資料がある。先づ東方三里の地點には、高さ三百尺の大きな塔があつ  
て、吾々の謂ふ佛陀が遠い昔の先覺者然燈佛 *Dīpaṅkara* から將來貴い身分に  
なると云ふ豫言を受けた場處を表示してゐたものである。次に西南二十里の  
地は、佛陀が子孫の爲を思ひ、或る洞穴内に我が影を残したものだと思へら  
れてゐる。最後に、貴い醯羅城は東南三十里の地にあつたものである。ここ  
ろで此の醯羅城のあつた處はヂェララバードの南方七八吉米突にあるハツダ  
*Hadā* 村落に依て示されてゐることは争はれぬ所である。又影を残したと云  
ふ洞穴に就ては法顯、宋雲、玄奘法師、三者の説が一致する所で、これに依  
ると其の洞穴はどうしても、南方に連なる長い斷崖に沿ひチャールバーグ  
*Tchahār-Bāgh* 村落の南方なるシャールサン *Shāh-Sang* (黒石)と云ふ割目までの間